

医療用医薬品 漢方薬

漢方薬の業界団体

●日本漢方生薬製剤協会

<http://www.nikkankyo.org>

「証」による管理はオーダーメイド処方

●薬成

新薬は1つの病態に対して効きめを発揮しますが、漢方薬は体の状態に対応するオーダーメイド処方です。漢方薬では体の状態をみて「証」で管理します。漢方薬は、免疫を高める作用やアレルギーに対する効果が解明されています。10年ほど前に「小柴胡湯」や「大黃甘草湯」などの効果が臨床試験で証明されました。

ぜんそくの発作が出た時は新薬で症状をおさえ、落ち着いたら漢方薬に切り替えるなど新薬との組み合わせができ、ステロイド系の薬剤を減らす効果があります。

漢方薬は、恐ろしい副作用が少ないのが特色です。ただし、インターフェロンとの併用は禁じられています。

●抽出した成分を顆粒状に製剤

漢方薬は、複数の生薬を合わせたものです。中国の古典に基づいて、日本で実用的なものに発展しました。

漢方薬の基本は、生薬を煎じて抽出したものを飲用し、素材そのものは服用しません。煎じる場合も、10種類の生薬が必要な時に9種類の生薬で抽出しても成分が充分に出ないことがあります。

分析すると、それぞれの生薬が作用しあっていることがわかっています。また同時に抽出しなければ最大の効果を出すことはできません。

業界大手のツムラでは、抽出したものをスプレードライという製法で水分を飛ばして固体化、さらにそれを顆粒状の製品にしています。これで品質を一定に保ち、携帯を可能にしました。

●慢性疾患に対する漢方薬処方

漢方薬への理解が進み、なかでも糖尿病や循環器疾患などで評価されています。使用される疾患・症状は、不定愁訴・更年期障害・自律神経失調症が最も多いようです。

さらに急性上気道炎、便秘、慢性肝炎、咳、痰、疲労、倦怠、こむらがり、急性・慢性気管支炎、アレルギー性鼻炎などにも処方されています。

医師の漢方薬に対する理解が進むことにより、調剤薬局の薬剤師も漢方薬と関わりあう機会が多くなります。

●漢方薬メーカーにもMRが存在します

漢方薬の分野でも、薬の情報提供を担当するのはMR(医薬情報担当者)です。業界大手のツムラでは、漢方薬の勉強だけでなく新薬の勉強も行い、MR認定試験に臨みます。一般的なMRの導入教育に加えて漢方薬の教育を行います。証の理解が難しいといわれます。

●日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師制度

漢方薬薬剤師として一定レベル以上の能力と適性があることを証明する資格です。

取得には、日本薬剤師研修センターと日本生薬学会が主催する研修を受け、試問に合格しなければなりません。申請すると「漢方薬・生薬認定薬剤師」に認定され、3年ごとの更新には研修に参加する必要があります。